

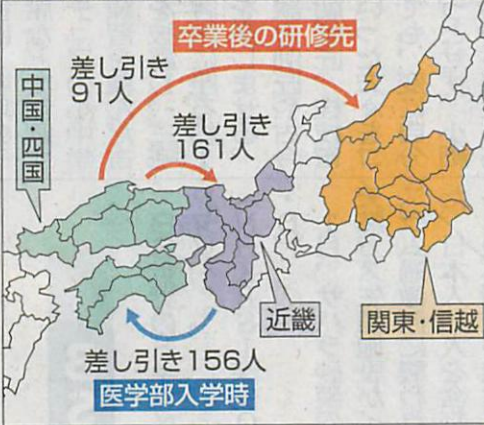
入学は流入超

大島国際大 教授が分析
中四国の医学部生

研修は流出超

医師不足「地元出身者増が鍵」

医学部入学時と卒業後の研修先選びの主な人の動き(2012年度)



とどまる。差し引き308人のマイナス。地元別では、対近畿のマイナス161人、対関東・信越の同91人が目立った。

中四国の10大学からの内定者数を募集定員

は近年、千人前後が卒業するが、中四国の病院を研修先に選ぶ学生は、他地方から来る学生も含めても700人前後。13年度の研修医の内定者数を募集定員の

で割った充足率は、広島県85・0%、山口県61・4%などと定員割れの医学部で地元出身者の比率を高めるには、『地域枠』の取り組みだけでなく、学力の高い高校生に地元での医学部受験を勧めるなど進路指導の工夫も鍵になっている。

中国・四国地方は、大学の医学部に近畿地方などから多くの高校生を迎え入れるが、その分だけ医学部卒業時に他の地方に送り出す人数も多い。広島国際大医療経営学部の江原朗教授(医療政策)の分析で、そんな傾向が浮かび上がった。地域の医師不足対策として「卒業後もとどまりやすい地元出身の医学部生を増やす方が今まで以上に必要だ」と提言している。

(馬場洋太)

江原教授は、情報公開請求で入手した文部科学省の資料などを基に、2012年度の医学部進学者の出身高校や、医学部卒業後の研修先の内定状況を分析。全国を七つの地方に分けて集計した。

一方、卒業後の研修

病院選びでは、101

6人のうち475人

(47%)が他の地方に

出るのに対し、中四国

に来るのは167人に

達した。

その結果、中四国に

10ある医学部の入学者

計1111人のうち、

494人(44%)を他

地方の出身者が占め

ていた。

中四国から他地方

の医学部に入る進学者

を142人上回る「流

入超過」だった。特に

近畿地方とは、95人を

送り出して251人を

迎え、差し引き156

人のプラスだった。



12月2日(月)

発行所
広島市中区土橋町7番1号
〒730-8677

中国新聞社

電話(082)236-2111(受付案内台)

郵便振替口座 01370-0-57

ホームページ(中国新聞) <http://www.chugoku-np.co.jp/>

紙面へのご意見・ご要望は

読者広報部 ☎082-236-2455